

赤平市の子供たちの学力・生活習慣の向上に向けて

— 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果報告 —

平成30年10月 赤平市教育委員会

4月17日に、小学校6年生及び中学校3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお知らせします。

赤平市教育委員会では、この調査から、市内の児童・生徒の生活面・学習面の傾向をとらえ、教育施策の一層の充実をはかります。保護者の皆様には、ご家庭での生活習慣及び家庭学習の充実に向け、学校と連携したご協力をお願いいたします。

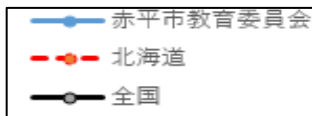
なお、この調査は学力の一部をはかるものであることをご承知おき願います。

【1 学力の状況】

A問題：主として「知識」に関する問題（身につけておくべき基礎的な知識や技能）

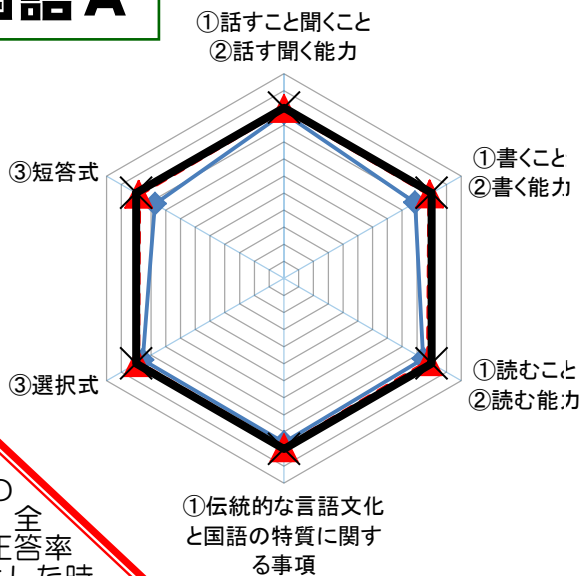
B問題：主として「活用」に関する問題（知識や技能を実生活の場に活用する能力）

小学校



グラフの各項目の種類
 ① 学習指導要領の領域
 ② 評価の観点
 ③ 問題形式

国語 A



<国語 A>

全国の平均正答率とほぼ同じか、やや下回っています。(85～95%)

①領域別・②評価の観点の状況について

○全国との差が最も小さいのは『話すこと・聞くこと』の領域であり、特に、「事例を挙げながら筋道を立てて話す」問題は、全国とほぼ同様となっています。

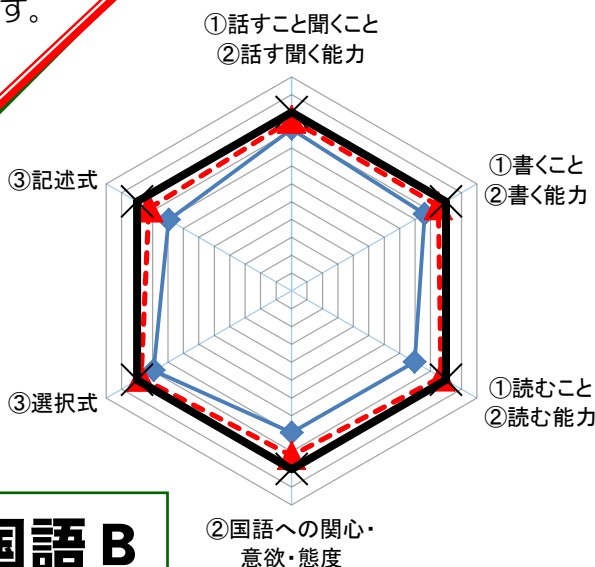
▲全国との差が最も大きいのは『書くこと』の領域であり、特に「文章全体の構成の効果を考える」問題は、全国と比べて10ポイント程度下回っています。

③問題形式別の状況について

○▲選択式は、「慣用句」「漢字」の問題で全国と比べて5ポイント程度上回っている問題や、10ポイント程度下回っている問題があります。短答式は全国と比べて5ポイント程度下回っています。

それぞれのグラフは、全国の平均正答率を100とした時の、北海道と赤平市の正答率をレーダーチャートで表したものです。

国語 B



<国語 B>

どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。(80～90%)

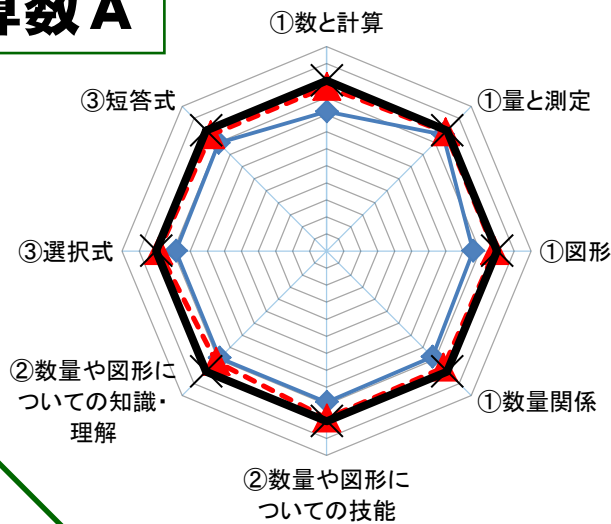
① 領域別・②評価の観点の状況について

○▲どの領域も全国と比べ10～20ポイント程度低くなっています。ただし、「司会の役割を捉える」問題については全国とほぼ同様となっています。

③問題形式別の状況について

○▲選択式、記述式のいずれも全国と比べて10～20ポイント程度低くなっています。「おすすめする文章を書くときの工夫を選択する」問題は、5ポイント程度上回っています。

算数 A



<算数 A>

全国の平均正答率とほぼ同じか、下回っています。(80~95%)

①領域別・②評価の観点の状況について

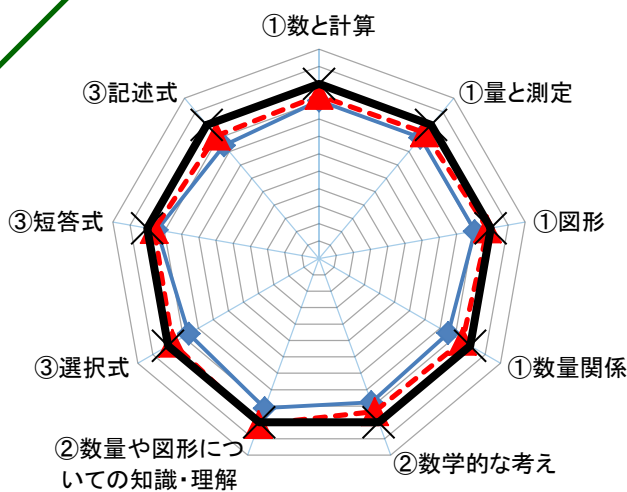
○「量と測定」の領域は全国との差がほとんどなく、特に「分度器の目盛りを読む」問題は全国と比べて5ポイント程度高くなっています。

▲「数と計算」の領域は全国と比べて10ポイント程度低く、特に「小数の除法の意味理解」は全国と比べて20ポイント程度下回っています。

③問題形式別の状況について

▲選択式、短答式のいずれも全国と比べて5ポイント程度下回っています。

算数 B



<算数 B>

どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。(85~95%)

①領域別・②評価の観点の状況について

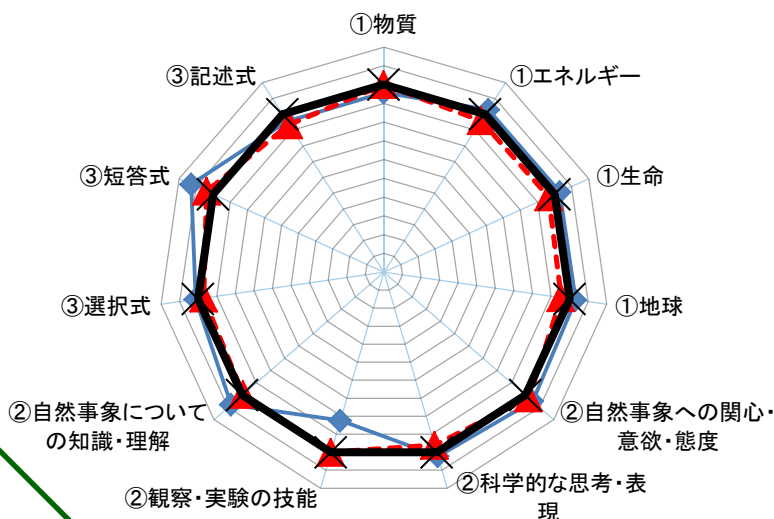
○「示された情報を解釈し条件に合う答えを求める」問題は全国と同様となっています。

▲どの領域も全国と比べて5ポイント程度低く、特に「情報とグラフを関連付けて解釈する」問題は全国と比べて10ポイント程度下回っています。

③問題形式別の状況について

▲選択式、短答式、記述式のいずれも全国より低くなっています。

理科



<理科>

ほとんどの項目において、全国の平均正答率を上回っています。(80~115%)

①領域別・②評価の観点の状況について

○「生命」の内容は全国と比べて5ポイント程度高く、特に「人の体のつくり」は全国と比べて10ポイント程度高くなっています。

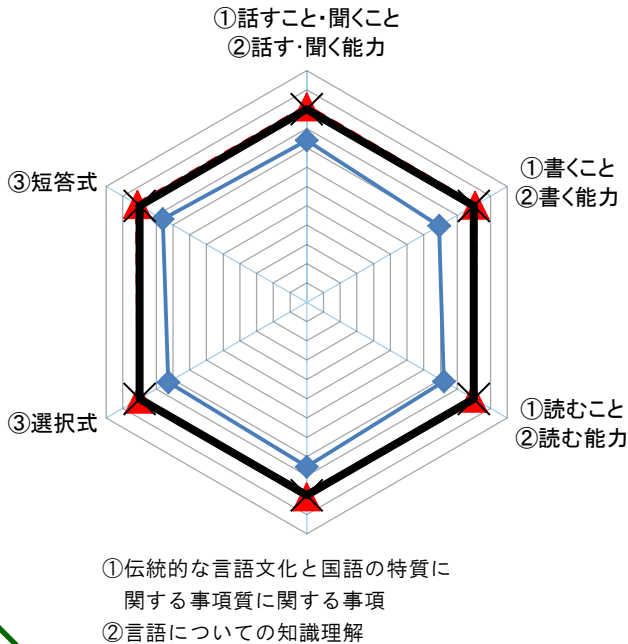
▲「物質」の内容は全国よりもやや低く、特に「ろ過の操作方法」は全国と比べて10ポイント以上下回っています。

③問題形式別の状況について

○短答式は全国と比べて10ポイント程度高くなっており、選択式と記述式は全国とほぼ同様となっています。

中学校

国語 A



<国語 A>

どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。(80~85%)

①領域別、②評価の観点の状況について

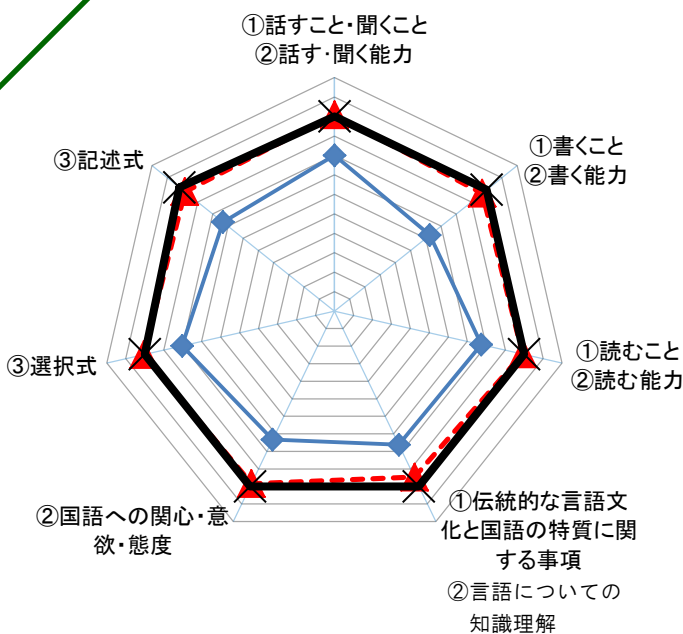
○「伝えたい事実や事柄が相手にわかりやすく伝わるように書く」ことや、「文脈の中における語句の意味を理解すること」が、全国とほぼ同様となっています。

▲「書いた文章を読み返し伝えたい内容が十分に表されているかを検討する力」や、「文章の展開に即して情報を整理し内容を捉える力」が、全国と比べて 25 ポイント程度下回っています。

③問題形式別の状況について

▲選択式、短答式のいずれも全国と比べて 10 ポイント程度下回っていますが、選択式よりも短答式の方が、正答率が高い傾向にあります。

国語 B



<国語 B>

どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。(60%~80%)

①領域別、②評価の観点の状況について

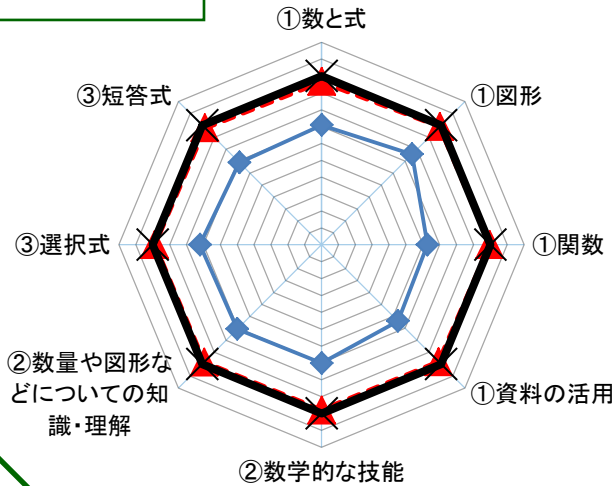
○「文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える力」が、全国とほぼ同様となっています。

▲「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」ことや、「あらすじを捉えて書く」ことなど、書く能力が、全国と比べて 15 ポイント程度下回っています。

③問題形式別の状況について

▲選択式・記述式のどちらも全国と比べて 15 ポイント程度下回っており、特に記述式の問題の無解答率が全国と比べて 20 ポイント程度高くなっています。

数学 A



<数学 A>

どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。(60%~75%)

①領域別、②評価の観点の状況について

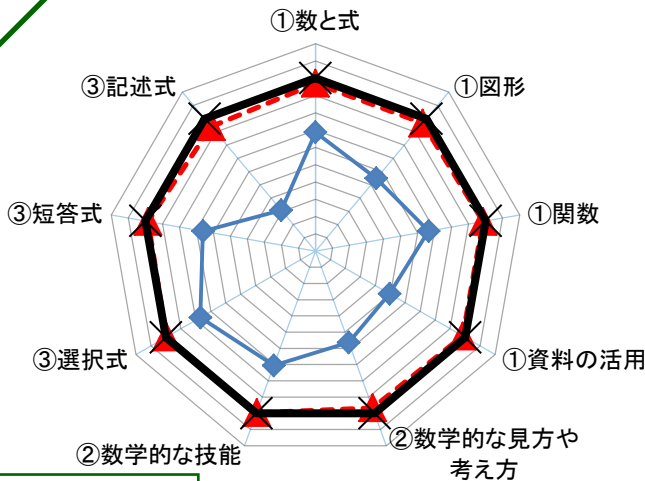
○「正負の数」「対称な図形」「1次関数」の基本的な意味の理解は、全国とほぼ同様となっています。

▲「代入して式の値を求めること」「図形の作図」「グラフから解を導き出すこと」など、数学的な技能が、全国と比べて30ポイント程度下回っています。

③問題形式別の状況について

▲短答式の問題の無解答率が全国と比べて50ポイント程度高いものがあり、問題の意味や計算方法を理解する学習が必要です。

数学 B



<数学 B>

どの項目も、全国の平均正答率を大きく下回っています。(30%~75%)

①領域別、②評価の観点の状況について

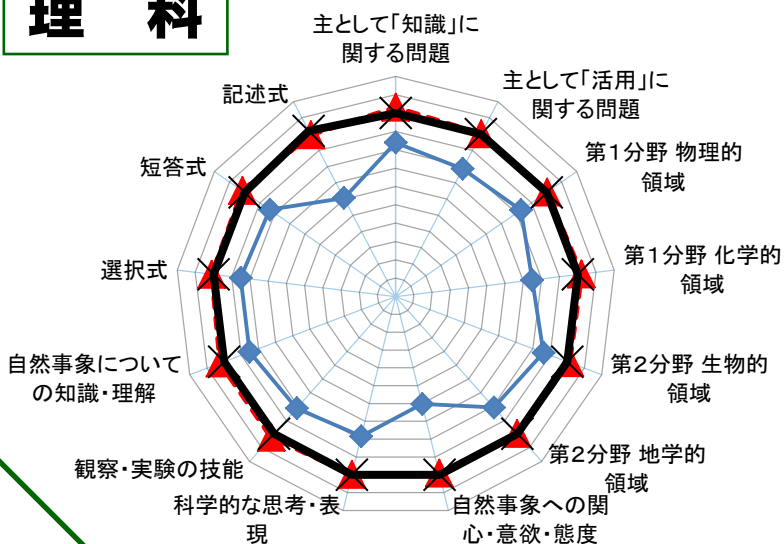
▲どの領域も基礎学力が定着していないことから応用問題への対応が困難になっており、改めて数学の基礎的な学習が必要です。

▲特に「図形の変形」を頭の中で組み立てながら解を導く問題は、全国と比べて30ポイント程度下回っています。

③問題形式別の状況について

▲記述式は全国と比べて30ポイント程度下回っています。

理 科



<理科>

どの項目も、全国の平均正答率を下回っています。(60%~85%)

①領域別、②評価の観点の状況について

○「神経系の働きについての理解」は、全国と比べて5ポイント程度上回っています。

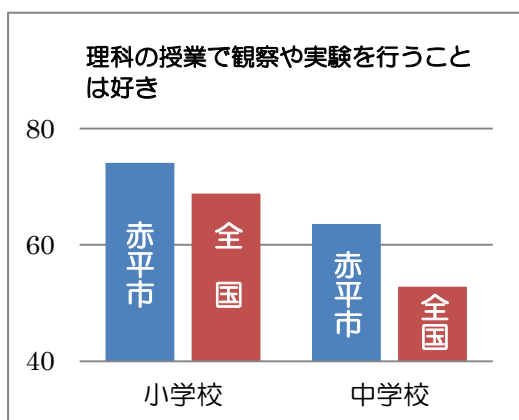
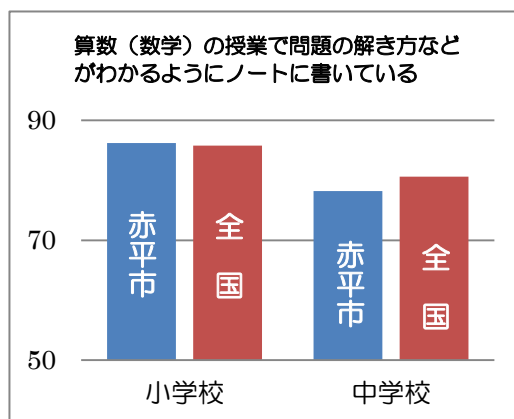
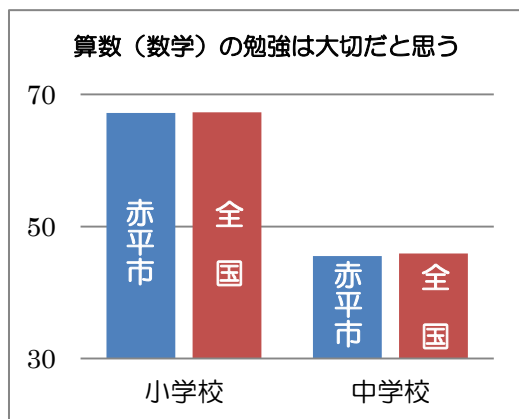
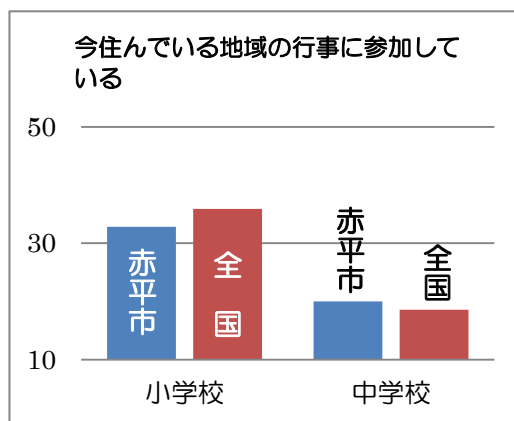
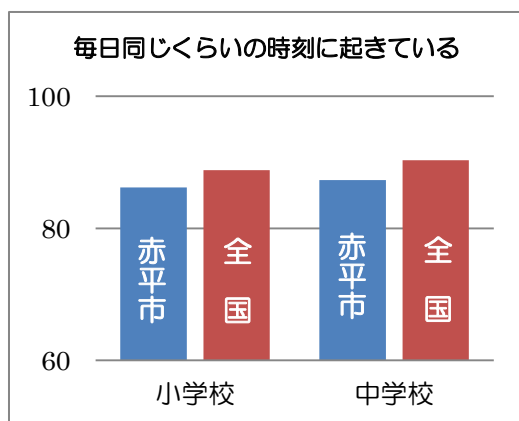
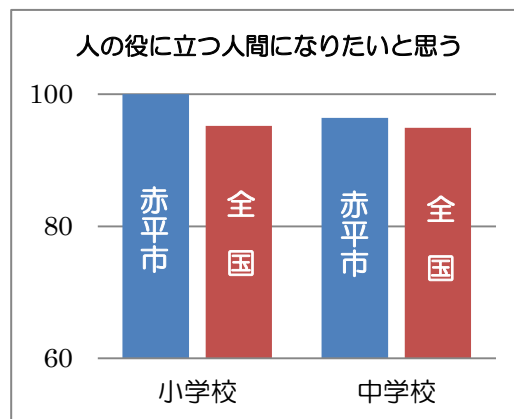
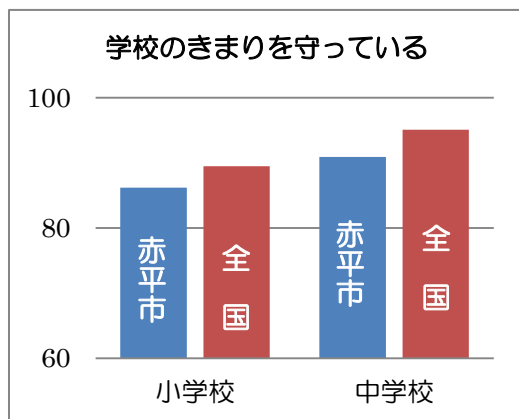
▲「濃度」「化学変化」についての応用問題は、全国と比べて20ポイント程度下回っています。

③問題形式別の状況について

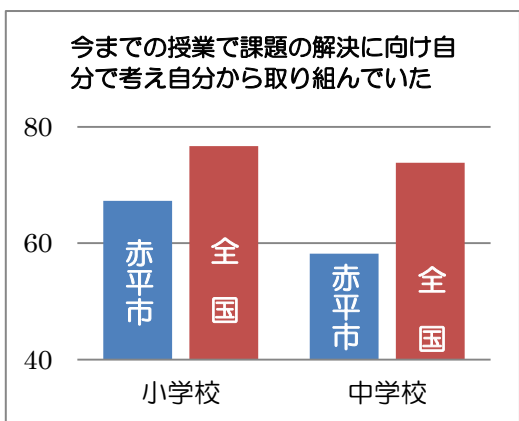
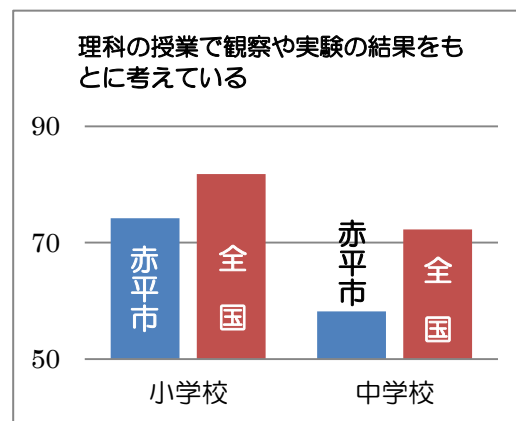
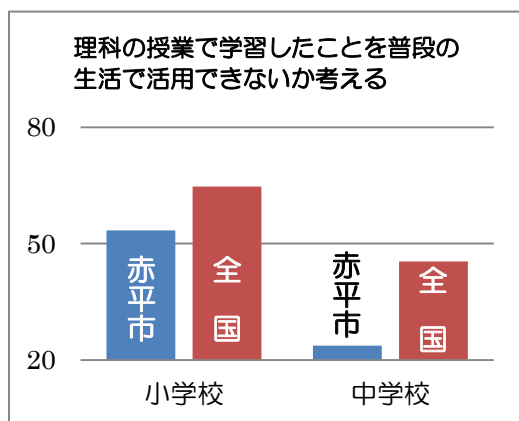
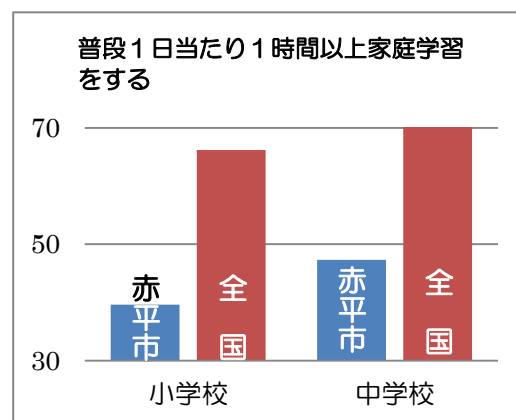
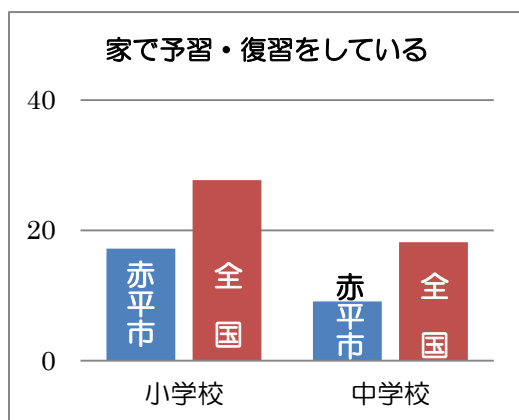
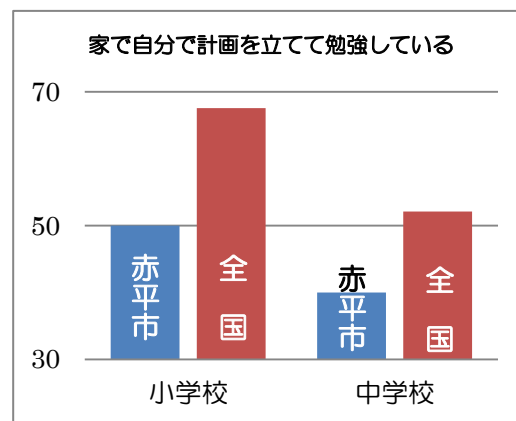
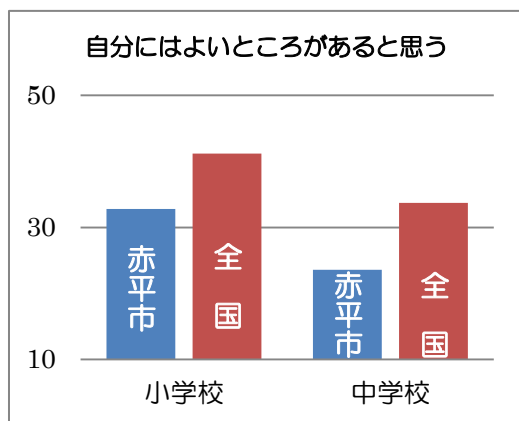
▲記述式は、全国と比べて20ポイント程度下回っています。

【2. 児童・生徒質問紙調査結果（抄）】

（1）【全国平均と比較して望ましい傾向、もしくは、ほぼ同様の傾向にある項目】



(2)【全国平均と比較して改善が必要と判断される項目】



(3) 児童・生徒質問紙調査結果から

- 学校のきまりを守っている割合は、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあります。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う割合は、小学生も中学生も全国より高い傾向にあります。
- 毎日同じくらいの時刻に起きている割合は、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあります。
- 今住んでいる地域の行事に参加している割合は、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあり、小学生が高い傾向にあります。
- 算数（数学）の勉強は大切だと思う割合は、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあり、小学生が高い傾向にあります。
- 算数（数学）授業で問題の解き方などがわかるようにノートに書いている割合は、小学生も中学生も全国とほぼ同様の傾向にあります。
- 理科の授業で実験や観察を行うことは好きな割合は、小学生も中学生も全国より高い傾向にあります。

- ▲ 自分にはよいところがあると思う割合は、小学生も中学生も全国より約10ポイント低くなっています。
- ▲ 家で自分で計画を立てて勉強している割合は、小学生は全国より約15ポイント、中学生は約10ポイント低くなっています。
- ▲ 家で予習・復習をしている割合は、小学生も中学生も全国より約10ポイント低くなっています。
- ▲ 普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上家庭学習をする割合は、小学生も中学生も全国より約25ポイント低くなっています。
- ▲ 理科の授業で学習したことを普段の生活で活用できないか考える割合は、小学生は全国より約10ポイント、中学生は約20ポイント低くなっています。
- ▲ 理科の授業で観察や実験の結果をもとに考えている割合は、小学生は全国より約10ポイント、中学生は約15ポイント低くなっています。
- ▲ 今までの授業で課題の解決に向け自分で考え自分から取り組んでいた割合は、小学生は全国より約10ポイント、中学生は約15ポイント低くなっています。

(4) 家庭・地域へのお願い

当市の子どもたちは、基本的な生活習慣がおおむね身に付き、学校の授業に必要感をもって取り組んでいる様子がうかがわれます。一方、家庭学習に対する意識が低く、家で勉強する時間が大変不足しています。また、自ら学び自ら考え、学んだことを生かして考えることを苦手にしている傾向にあります。

子どもたちの将来の職業選択を考えると、基礎学力の定着は必須であり、そのためには、家庭学習の時間を確保することや、自ら学習に取り組む態度を育むことが必要です。子どもたちの将来の夢や目標を実現するため、学校から示されている家庭学習の時間は最低限確保するよう、お願いします。

また、当市の子どもたちは人の役に立つ人間になりたいと考えている一方、自分に自信がもてずにいます。そのため、家庭で役割を与え、自分の責任を果たす喜びを味わわせたり、地域のボランティア活動に親子で参加し、一緒に汗を流す体験を通して社会貢献の意義を体感させたりするなど、自己存在感が自覚できる経験を積み重ねていくことが大切です。

赤平の将来を背負っていく子どもたちに、計画的、継続的に社会性や責任感を育てていくよう、それぞれの立場でお力添えをお願いします。



【3 今後の取組】

(1) 目標

全国学力・学習状況調査における教科に関する全ての調査において、全国の平均正答率を目指す！

(2) 重点

<小学校>

- 国語では、『書く能力』を高めるため、特に、自分の考えを明確に表現するために文章全体の構成の効果を考える学習活動を充実させていきます。また、経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆など書いたりする学習を行っていくことで、学力向上につなげていきます。
- 算数では、『数と計算』領域の正答率が低く、特に、小数の除法の意味理解に関する問題の正答率が低かったことから、『数と計算』領域における低・中・高学年の系統性を踏まえた指導を進めていきます。また、資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり、読み取ったことを言葉や数を用いて記述したりする学習を行っていきます。
- 理科では、『観察・実験の技能』に関する問題の正答率が低かったことから、授業において実験器具を実際に使用する場を保障すること、また、器具の操作にどのような意味があるのかを理解できるようにすることを意識した授業づくりを行っていきます。

<中学校>

- 国語では、『読む能力』を高めるため、複数の場面や描写を結びつけて文章を解釈し他と比較しながら自分なりの考えをもつ「確かな読み」目指します。また、文章の理解をより深めるために、考えの根拠となる描写を具体的に示し、伝えたいことを適切に表現するための語順や語の照応について検討する場面を設定しながら、「書く能力」を育成する学習活動に繋がります。
- 数学では、各領域における基礎的・基本的な知識・技能を定着させるため、四則計算の確実な習得や、3年間の系統性を踏まえた繰り返しの学習の習慣付けを図ります。また、事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、特に関数では表・式・グラフのどれを活用するのが適切かを検討し、判断する学習を重視します。
- 理科では、自然の事物・現象や身の回りの事象から問題を見だし、生徒自らが課題を設定して科学的に探究する学習を行っていきます。また、自分の考えをもち、他者の考えと比較しながら対話を通して、科学的に探究する能力を育てます。

<家 庭>

- 生活リズムを整え、家庭での具体的な学習内容を示しながら、毎日決まった時間に机に向かって宿題や予習、復習をする習慣を身に付けさせます。
- 「ノーゲームデー」など、コンピュータゲームやインターネットをしない曜日を設定するなど、家庭学習にきちんと取り組ませるための約束を決めます。

<地 域>

- 地域の活動の中で、人の役に立つことよさや達成感を味わわせながら、1人1人に責任感を育成し、自己有用感を養います。
- 親子で参加し汗を流して活動できるボランティア活動などの社会体験活動の機会を設定し、社会貢献の意義を実感できるようにします。

(3) 教育委員会の施策

- ①新学習指導要領の理念等を踏まえた適切な教育課程の編成・実施を進めるよう指導します。
- ②道教委のほっかいどう学力向上推進事業「授業改善等援事業」や、ほっかいどう「チャレンジテスト」などを全ての小・中学校で行います。
- ③全国学力・学習状況調査における赤平市全体の結果と考察を公表します。
- ④関係機関と連携し、習熟度別少人数指導やチーム・ティーチングのための人的措置等を充実させます。
- ⑤赤平市公設塾や検定補助事業を推進します。
- ⑥赤平市学生ボランティア活用事業による小・中学校への支援を行います。
- ⑦全ての小・中学校で校内研修を充実させ、データ分析を活用しながら教師の指導力の向上を図ります。
- ⑧全ての小・中学校で家庭学習の手引などを作り、家庭学習の啓発に努めるよう指導します。
- ⑨関係機関・団体と連携し、地域で子どもを育てる環境づくりを進めます。
- ⑩学習支援員、学校支援ボランティアなどの人的確保・配置に努めます。
- ⑪ICT(情報通信技術)の整備・充実に努めます。
- ⑫小学校と中学校の連携を強め、9年間を見通した学びの連続性の確保に努めます。
- ⑬読書活動の充実に努めます。
- ⑭ALT(外国語指導助手)の派遣による英語教育や外国語活動の充実に努めます。

(4) 小・中学校の取組

上記の教育委員会の施策に基づき、学校の実態に応じた取組を組織的・計画的に推進します。

- ・「ほっかいどう学力向上推進事業」を計画的に進めます。
- ・基礎・基本の定着を図る学習指導を充実します。
- ・教師の指導力を高める校内研修を充実します。
- ・補足的な学習サポートの機会を充実します。
- ・家庭学習の手引を作成するなど、家庭と連携して家庭学習の充実を図ります。
- ※各小・中学校の取組については、学校だよりなどでお知らせいたします。

赤平市の子どもたちの健やかな成長と将来の夢や希望の実現のために、地域を挙げて学校へのご支援をお願いします。